

# 親しく正しく和かに

当山先々代三吉日照上人の提唱による  
当山スローガンです  
揮毫=大本山本興寺御開士大平日晋上人

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）  
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。  
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに  
広くお読みいただければ幸いです。



No.52  
令和5年3月1日発行



本覺山 妙壽寺 〈法華宗（本門流）〉  
〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1  
電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427  
ホームページ <http://myojuji.or.jp>



## リレーコラム No.9 奉職20年 当山職員 西澤國光

妙壽寺に入って20年が過ぎましたが、兄・西澤光（当山檀家世話人・故人）の紹介で奉職することになりました。奉職の季節が晩秋で通路一面の落ち葉を竹箒で掃除するのです。最初は1週間も続かないのではと思いましたが、

で線香に火をつけるなどはおやめください。また、墓参するときはゴミ袋を必ずご用意ください。当山には多くの樹木があり世田谷の保存樹林に指定されています。落ち葉で近隣の迷惑になることもあり、南側の木、竹などを六、七メートル内側に伐採しました。今年には椎の木を伐採、銀杏、松を二本ずつ剪定します。かつて10年前には鍋島邸前庭にツツジを移植、また渡り廊下横の茶庭の作庭、お寺の各所に各上人桜を植えています。平成30年に発行された「妙壽寺の四季」は境内の自然が紹介されています。ぜひもう一度お読みください。



宮澤賢治「雨ニモマケズ」碑と木蓮

## 役員婦人会新年会を開催

渡り廊下横に蠟梅咲く1月14日、役員婦人会新年会を開催。10時より総代会、12時より本堂にて年頭会祈願法要（写真上）、午後1時より鍋島客殿2階にて役員婦人会総会（写真下）を開催。3年ぶりの総会開催で、この間の諸報告。また、11月3日御会式に併せての昭和新本堂落慶40周年記念法要を迎えるにあたり、その記念事業計画などが報告されました。閉会后、半数の方々が残り、和やかな会食となりました。



## 法要のご案内

コロナウイルス感染の拡大防止のため、感染対策を十分に行い奉修いたします。

### 春季彼岸中日法要

3月21日(火・祭 春分の日)  
初座：午前11時 第二座：午後2時  
動物諸霊法要：正午

5月6日(土)

午前11時  
猿江大祭 法要

於 猿江別院  
(別紙参照)

### 孟蘭盆会施餓鬼法要

7月16日(日)  
新孟蘭盆会法要(新盆) 午前11時  
孟蘭盆会法要 午後2時  
動物諸霊法要：正午



## 宗務院 DIARY

- 12/19 宗務院研修旅行(玄武洞→城崎→天橋立)①
- 1/11 宗祖聖誕800年記念法要実行委員会
- 1/23 東京教区新年会 於 浅草ビューホテル
- 2/7 法華宗新報編集部交代式、内局会議

- 桑港・日蓮教会 日蓮教会理事鈴木友子氏、11月30日来日。園田顕教師、新宿にて面談。同理事宮崎さおり氏、12月8日当山来山。
- 猿江・猿江別院 2月6日 写経会



山門に入った右側の古木の椎木が、2月10日、倒壊しました。



雪の梅



菘の臺

## 境内情景

お年玉箱に残りし寅の柄  
裏白の重き役目や松の内  
日本橋獅子舞喰らう初祝儀  
靴先に蹲りけりふきのとう  
水垢離の寒百日や修行僧  
甦る紅の面影寒椿  
鶺鴒

## 俳句事始 睦月・如月



左から故恵子さん、故朝丘雪路さん(実父は伊東深水画伯。日照上人の親友)、山田智恵子さん(昭和40年頃)



## 寺日記

てらにつき

- 12月21日 京都本能寺資料調査 宮武憲之先生
- 12月24日 お焚き上げ法要・大掃除
- 1月1日 元旦国禱会②
- 1月6日 立石晴康元都議(東京ブディストクラブ会員) 本葬儀 於 築地本願寺
- 1月10日 淡交会関東第一地区新年互礼会
- 1月14日 当山新年会(総代会・年頭会法要・役員婦人会総会・懇親会)
- 1月16日 裏千家今日庵初釜式 於 東京道場
- 1月18日 宗教法制研究会総会 於 赤坂
- 1月19日 国際医療懇話会 当住上人講演
- 1月21日 元総代山口道雄氏(正隆廟建立委員長) 十七回忌・同久子夫人十三回忌法要
- 1月24日 東京ブディストクラブ新年会
- 1月31日 三吉恵子(当住上人叔母)一周忌法要
- 2月1日 御導師大阪妙道寺高橋頭照上人③④
- 2月2日 全日本仏教会新年懇親会 於 京都
- 2月3日 節分会追儀式・正隆会⑤
- 2月8日 裏千家大宗匠百寿茶会 於 東京道場
- 2月16日 宗祖聖誕800年宗門慶讃大法要

## 予告

3月10日(金) 東日本大震災法要  
於 茂原大本山鷲山寺(宗門僧侶にて奉修)

5月6日(土) 猿江大祭法要 於 猿江別院

## 猿江別院御写経会

4月13日(木)・6月1日(木)

※毎回、13時~19時 参加費:500円



## 新規墓所のご案内

- 3尺×4尺=6基
- 3尺×3尺=6基
- 2尺×2尺=8基

詳細は当山までお問い合わせください。

## 正隆会

[SHORYU-kai]  
午後2時開催

## 月例講座案内

当山では、毎月第2土曜日午後2時より月例講座を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人どなたでも参加できます。例会では、毎回1時半より正隆廟前法要を奉修しております。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため離隔距離をとり、実施いたします。

- 3月11日 勉強会「日蓮紀行」拝読 24
- 4月8日 勉強会「法華経へのいざない」拝読 1
- 5月6日 猿江稲荷春季大祭
- 6月10日 勉強会「法華経へのいざない」拝読 2
- 7月8日 写経会
- 8月 休会



# 「着物作り今昔」

語り手：吉田欣三氏（染色業—模様の糊置）

吉田文字夫人

聞き手：三吉廣明上人・三吉久美夫人

令和4年12月6日 富山（持仏の園）

## 吉田家と妙壽寺との縁

三吉廣明上人（以下、住職） 本日はご主人吉田さんと文字夫人にお越しいただきました。私は以前から、吉田さんに着物のお話をいろいろとお伺いしたいと思っておりました。

まず、着物のお話に入る前に吉田家と妙壽寺先々代日照上人とご両親のことを伺います。私はご両親の晩年に、砂町（江東区）のご自宅へ何回かはお伺いをしております。

私は40年間住職を務めていますが、その住職になり始めた頃は、吉田（義雄氏）二世話人・きよ子様（婦人）さん、ご両親がお元気で、よくお寺の役員会、新年会等にお見えをいただきました。また旅行会ではお父さんがお酒をおいしく召し上がっていました。お母さんに呑み過ぎを咎められていたイメージがございました。お母さんは、元々は吉田家の方ですね。吉田欣三氏（以下敬称略） そうです。

住職 お父さまは何かから入られたのですか。  
吉田 はい、会っています。  
住職 吉田さんは何人ご兄弟でしようか。  
吉田 男6人兄弟です。だから大変だったんです。

住職 何年生まれですか。  
吉田 私、昭和16年です。  
住職 では、戦争中は杉戸に疎開されていたのですか。  
吉田 疎開は3歳か4歳くらいです。戦争が始まったのが16年12月です。疎開先は、一応戦前生まれなんです。

住職 お母さまは、6人の坊やを育て…。  
吉田文字夫人（以下敬称略） そう、偉い。吉田 小学校1年から高校までに6人いたんです。疎開先の杉戸の古利根川で

夏になると泳いだり。22年に利根川が決壊して栗橋の堤防が切れて、東京方面まで水が、大水になったんです。それで父は東京に勤めていたものだから帰ってこれなくなりました。水のあるところはボートに乗って、ないところはボートをかっつけて杉戸まで帰って来たことがあります。三吉久美夫人（以下、久美） たくましいですね、やはり昔の方は…。

吉田 その頃じゃないかな、日照上人がお見舞いに来てくれたのは。

## 春公のころの思い出

住職 男6人のご兄弟は、お父さまのお仕事は継がずにそれぞれ皆さんはいろいろなお仕事をされる中で、亡くなられた弟さんと欣三さんは着物のお仕事に就かれたのですか。  
吉田 そうですね、仕立てを。中学卒業して15歳ですね。渡辺糊画工芸というところで、知り合いの口利きで紹介されました。昔で言う住み込みです。

久美 どのあたりですか。  
吉田 高田馬場で、神田川のそばです。川で反物を洗っていました。  
久美 大方、染物屋さんは神田川のそばですね。  
吉田 神田川は、早稲田から神田方向に流れていて、染物屋は落合、中井あたりが多かったですね。今は川が汚れて流せませんが、毎年秋になると一反張ってやっていますね。

久美 まだ何軒が残っていますね。  
吉田 ええ、旗とか緞帳をやっています。でもだんだん少なくなっています。それで親方が着物のほつを始めたんです。

## 「糊置」のりおきとは

住職 仕事は兄弟子に教わるのですか。  
吉田 一応旦那がいて、私を含めて3人の弟子がいて、それで戦前からの職人さんがいたんです。五、六人というのはいっぱいあります。大体1人でやっている人がほとんどです。

住職 家内が着付けを勉強しましたが、今は着物をお召しにならない方が多くなりましてや糊置とはどういふのか、ちょっと教えていただきたいです。  
吉田 例えば、着物の柄の線を糊で描きます。

久美 その糊は何でできているのですか。



左から当住三吉上人、吉田欣三氏、吉田文字夫人、三吉久美夫人

吉田 もち米を粉にして出る糠を、さらに細かく粉にして、塩を混ぜておまんじゅうにして作ります。うどんを練るみたいにしてこねて、それで炊くんです。

吉田 煮て、糊を作って、だから細かい線ができるんです。戻して柔らかくしてそれでいろいろなものをに入れて、中に赤い蘇芳（すおう）マメ科の植物で、染料原料）を煎じて入れて、色を付けます。

久美 糊といっても赤いんですか。  
吉田 赤いのと、あと、今はほとんど青い糊です。  
久美 蘇芳を入れる理由は。  
吉田 結局何でしようね、見やすいようにやるのかな。

住職 青いもの原料は。  
吉田 亜鉛末と言って、粉状の亜鉛のことで青のパウダーです。  
住職 そこでは糊置を主にやっていたのですか。  
吉田 そうです、主に。そこは悉皆屋さん（しつがい）染物や洗張りなどを業とする者）という、大きな呉服屋さん2軒から注文を取っていました。

私はこの仕事をやってよかったと思っています。一応その流れを全部把握してました。染め屋さんや模様師さんという絵を描く人の所へも行った。いろいろな所へ小僧の頃に回りました。仕事をしながら。だから何年かはほとんど外回りです。帰ってくるのもついでで、10時頃まで仕事です。暮れになると、風呂屋へ行くのが週に1回行けば…。

## 「着物」が完成するまで

住職 早くお亡くなりになった弟さんもおいででした。弟さんほどこの部分を

やってもらったのですか。

吉田 弟はもう最後の仕立てです。高校卒業して、どうしようかというので、うちへ来ていた悉皆屋さんという古くからやっている京都から来ていた仕立て屋さんで、そこそ花柳界の仕事なんかもやっていました。

文字 引きが多かったですね。着物一枚は何工程も経て、最後に仕立てへ行ってお客様にという感じですね。糊置はその中の一工程です。でも糊置しないと、きれいに染まらないです。

住職 およそ何工程くらいあるのですか。  
吉田 いや、分からない。本当、数えるのは大変です。着物だったり三丈物（さんじょうもの）の、生地はどつどつ生地にするか、一越縮緬とか縮子だとかいろいろあります。どつどつ生地がどういふのを決めて、生地が決まったならば、あと、胴裏、裾回しか、そつじつのも全部そろえ、それから湯熨斗（ゆぬす）といって、生地をきちんと寸法を。あれは伸びるからだから生地を伸ばして、それで寸法をきちんと印をして…。仕立て屋さんで断つて、仮縫いをして、それからです、生地来るのが。

文字 模様師さんが描いたら、今度、糊屋さんに行って糸目糊を引きます。  
吉田 それから、染め屋さんへ行って糊を落着かせるのに地入れをやる。それで友禅をさすところへ行って蒸しをするんです。色止めするの、空蒸し（くわじ）といって。またうちへ戻ってきた、糊を、今度は伏せ糊（ふせ糊）といって柄を全部糊を付けて、柄のところは、糊をべったり置く、これが糸目糊（いとめ糊）といって、友禅をさすときに色止めする。

この色を止めるのに空蒸し（くわじ）といって、蒸し屋さんというのがまた別にあるんですよ。今度は伏せ糊（ふせ糊）で、糊で全部覆って、それで地色が初めて染まるんです。そして

てまたもう一回蒸す。地色が動かないように。それをやらないと、雨が降ったりして濡れるともう流れちゃうんですよ。それを落ちないようにまた蒸すんです。そして糊を落とす。それを昔は神田川でやっていました。

住職 悉皆とは、私は仏教語ではないかと。言葉の源は「悉皆」は「ことごとく」皆で書きます。仏教で「悉皆成仏」といって、みんな成仏するという言葉があります。皆ごとくだから、何でも相談に乗って、何でも作りますよという意味合いです。

吉田 そうです。悉皆屋さんは風呂敷一枚で商売するなんて言っています。  
住職 でもそれはすごいプロデュース力というか、企画力で、何でも相談に乗らなければいけないから。やはり、今、仕立て直しではないけど、復活させるようなことも受けるわけじゃない。

現代の「着物」事情  
吉田 昭和天皇と皇后陛下の夜具の一部も手掛けました。うちはほとんど出来上がったものを見ないんです。だから、模様師さんが最後に仕上げる。そこへ行っていよいよとか、これはちよつと見られないなという物だけ見せてもらって、たまたま途中でうちへ来るのがあります。それは写真を撮っておいたものです。

久美 すてき。雪輪（ゆきぐるま）ですね。  
文字 そうですね。よく覚えていて。  
吉田 これは最高に手がかかっているものですよ。  
住職 これは工芸品ですね。  
吉田 そうです。だから、こつこつものに置いて、外へ出さないですね。

久美 辻が花染めは室町時代ですね。現代ではなかなか再現できないといいますが、ね、工程が難しい。  
住職 久保田一竹（染色工芸家）さんが復活して注目されました。  
吉田 あの方は、もつとくなられましたが、作っていたのは主に舞台衣装です。だから芸能界では結構有名ですね。何年前かに紅白歌合戦に歌

手が着ていた着物を見て、私が手掛けたものだすべにわかりました。森光子さん、それこそ朝丘雪路さん（祖父の伊東深水画伯は日照上人の畏友）の着物なんかもね。

住職 着物って今は、日常がみんな平坦になってしまっていて、お祝い事とか、特別なときにやっぱりいいなと改めて思っていますね。  
文字 今はみんなたんの肥やしですね。もつとくはない。  
住職 京都のご本山本能寺の真ん前が京都市役所ですが、市長さんは基本的に着物です。

吉田 そうですね。  
住職 京都がタクシーに着物で乗ると割引サービスがあって、着物を復興しようという政策がありますね。

吉田さんが着物に関わられて五十、六十年ですが、関われた中で、それは今の時代と映し鏡のようなときに、ご自分が多くの着物の部分を支えられたお気持ちも含めて、どのように思っておられますか。  
吉田 東京ではもう何年かするとほとんどできなくなってしまうかと思いますが、後継者がほとんどいないんです。当時は外回りを三十軒かを回ったことがありますが、染め屋さんには。あちこちの悉皆屋さんがいっぱい持っているわけですよ、仕事をね。

住職 それはいい経験でしたね。  
最後に、吉田さん、奥様とお二人でこの後お墓参りをなさるといことですが、吉田家の菩提寺として妙壽寺は、日照上人の伝統は何としても残していきたいと職員一同で話合っています。今、お寺に、ご要望、あるいはお寺に思っていること、ありますか。  
文字 特に要望はありませんが、今、私たちのところは、亡くなった長男のために嫁と私たち夫婦とで、お寺さんに来るよつとさせようかと思っています。

吉田 お寺に来ることが好きなんです。文字 私たちでお寺さんを見守っていただいているが、なるだけ長男の嫁に来てもらって孫に残したいなと。  
住職 ありがとうございます。今後のご夫妻の健康をお祈りしております。本日は、貴重なお話を伺いました。ありがとうございました。（了）



糊置の作業をする若き頃の吉田欣三氏



吉田氏が糊置を手掛けた芸者さんの桜模様の着物